蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議　第４回会議録

招 集 日	平成２８年２月３日（水曜日）	
開催場所	蓮田市役所　２階　２０１会議室	
開催日時	開会　平成２８年２月３日（水）午後５時００分 閉会　平成２８年２月３日（水）午後６時３０分	
出席状況	会　長　　中山　和久	出席 ・ ~~欠席~~
	副会長　　淺田　章裕	出席 ・ ~~欠席~~
	委　員　　中里　幸一	出席 ・ ~~欠席~~
	委　員　　廣本　覺	出席 ・ ~~欠席~~
	委　員　　田口　真悟	~~出席~~ ・ 欠席
	委　員　　吉澤　一徳	出席 ・ ~~欠席~~
	委　員　　島田　道太	~~出席~~ ・ 欠席
	委　員　　髙橋　恵美子	出席 ・ ~~欠席~~
	委　員　　寺澤　亜希子	出席 ・ ~~欠席~~
	委　員　　天野　真治	出席 ・ ~~欠席~~
出席職員	【蓮田市まち･ひと･しごと創生本部員】 蓮田市長　中野　和信 副市長　新井　勉 教育長　西山　通夫 総合政策部長　渡辺　実紀夫 総務部長　若山　克美 環境経済部長　岩瀬　英幸 健康福祉部長　椿本　美栄子 都市整備部長　細井　盛賢 西口開発部長　岩﨑　弘 上下水道部長　亘　宏邦 会計管理者　加賀谷　武憲 消防長　岡野　和男 学校教育部長　宗方　健二 生涯学習部長　小林　健一郎 議会事務局長　千代　康弘 監査委員事務局長　田口　久雄	【事務局】 総合政策部調整幹　田島　幸則 総合政策部長兼 政策調整課長　（渡辺　実紀夫） 政策調整課　副主幹　山田　百合子 政策調整課　主任　水沼　哲也
その他 の出席者	総合政策部次長兼広報広聴課長　大久保　忠広 ㈱ジャパン総研（守屋翔太）	
傍聴者	無し	

資料の確認	（略）
１．開会	（田島調整幹）
２．あいさつ ・中山会長挨拶	（中山会長） 皆様こんにちは。今回は今年度最後の会議となるということで、資料４のような委員の皆様のご意見が反映されたものができあがりました。またパブリックコメントの結果、２名の市民の方からご意見がございまして、このようなものが固まった次第でございます。 今日は、具体的な事業について、これはこうしたほうが良いのではないかというご意見をいただければと思いますので、是非宜しくお願いいたします。 （田島調整幹） ありがどうございます。 続きまして中野市長よりご挨拶ですが、市長は所用がございまして会議の途中から出席いたします。 それでは、新井副市長からご挨拶申し上げます。
・副市長挨拶	（新井副市長） 皆様こんにちは。本日は第4回になります蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議に、大変お忙しい中、またこういった時間帯にかかわらず、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。厚く御礼を申しあげる次第でございます。 蓮田市の人口は皆様ご存知の通り、このところ減少傾向が続いております。これは全国的な傾向でございますが、特に自然動態における出生と死亡についてお亡くなりになられる方が多いといったところに要因があろうかと思います。 一人の女性が生涯にわたって何人の子どもを出産するのかという合計特殊出生率を見てみますと、平成24年の蓮田市の値は、1.19でございます。平成25年は1.26 、若干ではございますが上向いてはきております。ただ、お父さんとお母さんお二人に対する子どもさんの数ということですので、この辺をいかに上げていくかということも大きな課題であります。その辺の所も今日ご説明があるかと思いますが、総合戦略の中では特に力を入れて、掲載しているところでございます。 全部で143事業を掲載してございますので、会長のご挨拶の中にありましたとおり、さらに具体的なご提案ご意見等いただければ大変ありがたいと思っております。 また、この後ご紹介があるかと思いますが、新しく埼玉りそな銀行の支店長が天野支店長に代わられまして、今日から委員のメンバーに入っていただき、ご議論いただくことになっておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。 皆様方の忌憚のないご意見を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。
委員自己紹介	（田島調整幹） ありがとうございました。それでは今、ご挨拶の中にもございましたが、このたび委員の変更がございましたので、ご紹介させていただきます。 埼玉りそな銀行蓮田支店長天野真治様をご紹介いたします。天野様宜しくお願いいたします。 （天野委員） こんばんは。埼玉りそな銀行蓮田支店の支店長として1月に参りました天野と

	申します。前任の黒堀もこの会に出させていただいたかと思いますが、今回は初めてということなので、しっかりと考えて、金融機関でどのようなことができるのかこの場で発言させていただければと思っています。是非宜しくお願いいたします。
定足数の確認 傍聴希望者の確認	（田島調整幹） 会議開催要件の説明、出席者数（7名）、会議成立の報告。 （田島調整幹） 傍聴人の確認、傍聴希望者なしの報告。
	（田島調整幹） では、これより先、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条第2項の規定により、中山会長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。それでは中山会長、どうぞ宜しくお願いいたします。
３．議事	（中山会長） それでは、いつもの通り、本日の議事を進行させていただきたいと思います。皆様ご協力のほど、宜しくお願いいたします。ではまず、議事1の「パブリックコメントの結果について」及び議事2の「蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について」は関連がございますので、あわせて事務局よりご説明をいただきたいと思います。
1）パブリックコメントの結果について 2）蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について	（事務局） 【資料2～4説明】 前回の会議では、委員の皆様から、約3時間にわたりまして貴重なご意見ご提案をいただきまして誠にありがとうございました。 只今ご説明いたしました計画でございますが、委員の皆様から、そしてパブリックコメントでいただいたご意見・ご提案を踏まえまして、策定したものでございます。 本日は、委員の皆様からは事業をより効果的に進めていくためのアイデアやご提言等をいただければ大変ありがたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。 （中山会長） ありがとうございます。 只今、「パブリックコメントの結果について」及び「蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について」、ご説明をいただきました。今まで委員の皆様方にいろいろなご意見を賜りまして、やっとここまで大変良いものができたかなと思います。 これを具体的に来年度から進めていくわけですが、まだまだ抽象度が高いところもございます。また、この事業自体行政主導というよりは、地方の自立を考え、地方の中で実際に動いていくことが必要で、具体的には官民協働が必要でございます。 私どもであれば人間総合科学大学という組織ですが、そちらと蓮田市の協働、それから、地域間連携ということで、蓮田市内で完結するのではなく、例えば私どもの子ども大学も来年度からは白岡市との連携を密にしなければいけないということで実際に動いております。 また、政策間の連携ですね、例えば、教育という政策ですが、それだけでと

	どまっているのではなく、人づくりまちづくりという場合には、具体的には農業ということで考えておりますが、蓮田市は稲作や梨に特徴があり、一方で教育の環境が非常に良いですから、これを一つの梃子にして、人づくりまちづくりといった地方創生を現実に動かしていきたいと考えております。今ざっとお話したのは、資料4の59ページに№143「大学連携事業」ということで書かれておりますけれども、地域連携を担う人材育成というところで、小学校高学年を対象に、来年度は「稲作」、「梨」というところに着目して、大学の授業とも一体化してだいたい11月くらいに行おうかなと考えている次第です。 　これだけの事業がありますから、委員の皆様からも、これはこのようにしたほうがもっとよくなるのではないかとか具体的に突っ込めるようなご意見がいただけたらありがたいなと思っておる次第です。 　それでは、委員の皆様方、何かこの事業はこのように進めたらうまくいくのではないかというようなご意見をいただきたいのですけれども、何かございますか。 （廣本委員） 　それぞれの事業を効果的に進めるためにはどうしたら良いかというお話でしたが、効果的に進めるためには、我々がそれぞれの事業をもう少し具体的に知る必要があろうかと思います。そこでまず提案をする前に確認をしたいと思います。 　まず、今回の全てのことは、それぞれの地方における人口がだんだん減っていってしまうということが大問題だから何とか増やす努力をしなさい、東京に集中することがならないようにということで、法律ができてこのような動きになっているわけです。そこで、17ページの図表20をみますと、今から50年後くらいになりますと、蓮田市の人口は37,700人に自然的な流れでなりますよとあります。 　次の18ページの図表22は、そうはいっても国がいろいろな政策を打つので、その政策が実施されると、45,803人になるよということです。 　そして、19ページを見ますと、図表24、ここでは蓮田市が、我々がここで検討してきた143の事業を全て打つと、50,512人で何とか50年後は済むよと。でもこれいずれも現在と比べると減っているのですよね。しかし、政策を打つとこうなるということになっている。これは、積み上げてきた数値という理解でよろしいですか。 （事務局） 　はい、その通りでございます。 （廣本委員） 　であると、その次の20ページの図表26には、一番下に37,700人、これは自然的に蓮田市の人口は平成72年にはこうなってしまうというものです。その上の45,803人、これは国が政策を打つからここでとどまるだろうと。そして今回の我々の政策を入れると50,512人となるとのことで、この我々の143の事業を打つことによって4,709人を増やすことができるよということが書かれています。 　そこで、今後の各事業をより効果的に進めるために、28ページの№1から59ページの№143まで、それぞれの政策がこの期間にこの事業を打つことによってそれぞれ何人増えたのかという数字がここには載っていない。先ほど、積み上げたとおっしゃったなら、ここに数字が入っていないとおかしいなと。そうすると、この政策を打ちながらこの目標数値の割には、これはあまりたいしたことがないね、という考え方ができるし、またはこのようなことでこんなに人口

	が伸びるなら、ここにもっと集中的に力を入れようとか、こういう検討の材料になりますが、ここの資料はたまたま数字と政策との間が飛躍していて、何もないところで理解しろとなっておりますので、まずここに数字を落とし込むべきでないかと。そして目標数字をどう持ってきたのか。平成72年までにどんなふうに持ってきてこうなったのかということをまず考えると、この政策が本当に力を入れるべきものなのかどうかという検討の材料になると思います。 （中山会長） 企業の考え方というか、売り上げを考えるときには当然考えなければいけない作業ですが、人口となると積み上げが難しいところもあるのだろうと思います。しかしながら民間のそういった知恵を入れて、プラス5,000人を実現してほしいと思います。 （廣本委員） いや逆に、どうやってこの数字が出たのかなということが、わからないですよね、この資料では。この資料の中には、この何年か後の数字がどう足し算されたのかということがわからないので、それがわかるようにしておかないといけないと思います。それが事業を一つ一つ理解していくことの初めの作業でないかなとも思います。 （中山会長） この積み上げの仕方は、まず目標を設定して、そのためにはこれをというような考え方でしたか。 （事務局） 今、廣本委員から3つの人口減少パターンのお話がありましたが、推計条件1の37,700人というものは、本当に何も対策をしなければこのようになってしまいますというところでございます。推計条件2につきましては、国に合わせた合計特殊出生率の目標を立てたことによって、45,803人になるということです。推計条件3もおっしゃる通りで、50,512人という目標がございます。これは国の目標が、15ページにございます国の長期ビジョンによる将来人口の見通しの中で、20.4パーセントの減少にとどまるという目標を掲げており、蓮田におきましても、この20.4パーセントを、まずは達成しなければならない数字ということで、考えたところでございます。 蓮田市につきましては、都心からこれだけ便利な場所に位置しておりますし、また新スマートインターチェンジや宇都宮線による交通利便性の向上があり、国が最低限の目標とする20.4%の減少にとどまるということは、最低限クリアしないといけないということが、この50,512人を出した一番の理由でございます。 （廣本委員） 積み上げではないということですね。 ですから、積み上げ型に少し変えないと、これからそれぞれの事業を進めていくためのものにはならないです。 これはあくまでも、タイトルを作っただけであって、それぞれの事業がいつ、どこで、何をどのように、どのような目標で行うかということを、一つ一つの事業に決めていかないといけないわけですから、少し発想を変えて、いままでの作り方はこれで良いのですが、これからの事業の進め方を検討していくには、積み上げ型に戻していかないとまずいと感じます。よろしくお願いいたします。

	（中山会長） 　ありがとうございます。他には何かございますか。 （中里委員） 　日本全国が人口減少という中で、国や地方自治体が努力をすれば数値はある程度上向きますよということですよね。そのために子育てや環境や教育など、行政のそれぞれの部署ができることが143事業書いてあります。ただし、決まった予算と職員の数で、143の項目をどのように推し進めていくのかということだと思います。効率的にといってもいろいろと制限がかかってしまうと思いますので、行政だけではできないし、でも行政が行わないとできないこともあるし、この資料というのは、まず行政ができることですよね。それを実施することによって、まちのいろいろな団体や関係者が推進していくということだと思いますが、もう少し、絞っていかないと、選択と集中をして、行政として一番何を行いたいのか、何を進めたら結果が一番出やすいのかということをどこかで教えていただかないと、全部必要ですが、全部はできないですから。まずはできることから、もう少し具体的な形で示していただければいいなと思います。 　これはすべて行って良いことだし、行っていくべきことだとは思いますが、優先順位や可能性の高いものについてもう少し具体性が見えれば良いと思います。 （中山会長） 　この辺は大分事務局も苦労されたと思います。重要業績評価指標も頑張って作られたなと拝見しましたけれども、やはり重要の上に最重要指標のようなものが10項目くらい絞れると、かなり優先の色分けができるのかなという印象を私も受けました。 　これについて何かありますか、事務局から。 （事務局） 　人口増加対策については、蓮田市の場合は総合振興計画がありまして、その中で、子育て・教育・基盤整備の3点に重点を置いて、様々な施策に取り組んで参りました。着手した事業の早期完成も大きいということで努力してきたところでございます。 　この事業を行えば、本当に特効薬的に人口が増加するということがなかなかないわけですから、総合振興計画を中心に、さらに今回のまち・ひと・しごと創生総合戦略の4つの基本目標の中で、新たな事業を付け加えてございますが、それを着実に実行していかなければならないと思っております。 　ただし、今お二人の委員からお話がありましたように、本当に重点的なものを決めて効果があるということも確かにございますので、今回の場合ですと、やはり市の政策の中では、子育て支援施策につきましては、今後、人口を増やしていくためには、一番力を入れていかないといけない事業だと考えております。 （吉澤委員） 　先ほどの中里委員からもお話がありました通り、いろいろと行うことはいっぱいあると思うのですが、行政の職員も人数が限られていますよね。私も県庁のほうに、あれがしたいこれがしたいと提案しても、向こうの人員が限られていて、こちらが思うものとあちらができることが食い違っているということがよくありますので、優先順位みたいなものは必要なのかなという気がします。

	（中山会長） 　やはり官だけでこれだけを行うのは到底無理な時代が来ていますから、いかに民がかかわっていくかという視点が必要で、例えばNPO法人の数を増やすというのがありましたので、その辺が事業の成功する・しないの鍵になってくるのかなという印象を私も受けました。 （髙橋委員） 　力を入れていくのが子育て支援施策でということでしたので、子どもを育てる世代の方がたくさんいればよいということで、その中でももう少し若くなりますが、大学生が大変な時代で、そのような大学生たちをどうにか市で使ってというか利用して、小さい子どもたちと一緒に学生も踏み込んで実施していけるような事業がこの中でどうにか使えないかなと思います。 　そうすると、教育関係に進もうとしている大学生が意外と多いので、その子たちがよその県や市に行かないで、いい人材がまた蓮田に戻ってきて、そこで生活して子どもを作っていってくれれば、ずいぶん違ってくるのかなという希望はあります。 （中山会長） 　確かに大学生がそのまま蓮田に勤めると良いと廣本委員が昔指摘してくださいましたけれども、仕事優先で行ってしまうというのがあって、そうすると蓮田に仕事を作れば、蓮田で就職もあるのではないかということがインターや工業団地の関係で戦略の中に盛り込まれています。できればここにずっと住んでいる大学生を外に出さないで、外から大学生を、蓮田市に住んでいながらよその大学に通っているような学生もいっぱいいるでしょうから、そのような学生たちを取り込むような具体的な場づくり、それが必要かなというご意見でした。 　これは、うちの大学の学生もサークルを作って、蓮田市の方から農園をお借りしていろいろ始めておりますので、本学としてもぜひ蓮田市のためにこれからも取り組んでいきたいなと思いますので、蓮田市のほうからも是非、そのような場づくりをお願いしたいのですが、学生の活用案として何か素案や腹案がございますか。特にまだないですか。そのあたりも盛り込んでいただけるとありがたいということです。 （寺澤委員） 　市のそれぞれの課の人たちがいろいろ策を考えられて、よくここまで出してもらったというのは、市民として感謝しております。 　やはり優先順位が大切だと思いますが、それぞれの課でこういったことを行いたいとか行ったほうがよいのではないかという考えがせっかくあるので、全てを市で行ってもらうのではなく、実施したいことをボランティア的なこととして、市民の方にお願いするという形がとれたらいいなと思います。 　子育ての時期の方は忙しいですが、年がたつと、意外と子育ての時期は短く、私ももう一段落してしまって、働いてはいますけれども子育てにかかわる時間が減りましたので、外に恩返しをしようかなということで、今、地域の子供たちを見たりしています。そういった形を単体でとるのではなく、市と連携ができたらいいと思います。 （中山会長） 　すでに実践されている中での現実的なご意見をいただき、大いに参考になると思いました。そのような事例を参考にたたき台にして、実際に行政で枠組みを作ってくだされば、あとは声掛けをすれば、そういう興味のある方が集まっ

	てくるというご意見でした。これは官民協働という意味では、非常に効果が高いのかと感じました。 （天野委員） 　事業ごとに人口がいくらになるのかというところが本当に推計できれば、非常に結果が見えて良いかなと思ったのですが、143の事業があってそれぞれ一つ一つに求めるのはなかなか難しい事業ばかりだと思います。ただ、中には、一つ一つ見ていくと、駅周辺整備事業とか、宇都宮線利便性向上事業で終電を遅くするとか、そういったところでは、ある程度推計ができるのかなと思います。推計ができるところでは、どれだけ人口の増加寄与があるのかを見ていただいたうえで、さらにあとは費用の面で、財政負担がいくらくらいかかるのかということを見て、それを掛け合わせて順位を決めるというのも一つの手かなと感じております。 　143の事業があって優先順位の話もありますが、いろいろな案を出し合って、とりあえず行ってみようということでお立てになった事業ばかりでしょうから、まずは走ってみて、今回は5年間という計画ですが、1～2年後、その効果を見極めたうえで、今後どうするのかということを振り返って決めるというのも一つの手かなと思っている次第です。 （中山会長） 　確かに、現段階では行ってみないと分からないというところが多々ありますが、 35ページの№29の宇都宮線利便性向上事業は、ある程度数値化できそうなところがございますので、その辺は行政の方で、厳密でなくて良いと思うのですけれども、大体このぐらいの人数が増えるのではないかということをとりあえず出してみて、行ってみて、実はそんなに増えなかったとかもっと予想以上に増えたとか、そのあたりを、来年度いっぱい予算を使う中で進めてみて、また、1年後ぐらいに我々がチェックするという形になってくるのかなという感じが確かにいたします。 （淺田委員） 　我々の団体としても、今回7回を迎えた雅楽谷の森フェスティバルで19,000人を集めたということがあるのですけれども、未だに市内にも周知がされていないということがあることも現状です。子ども大学も行わせていただいていて、今年は街コンを行いたいということで、今、栗橋の「くりばる」とか「くりこん」とかを計画されて実行委員会として行ってきた方の話を聞くということなども行っているところです。先ほど中里委員も寺澤委員もおっしゃっていられたのですが、行政のみではできないというところがあると思いますので、是非民の力を借りたいというところで、行政から要望があれば、どこまでできるかわからないのですけれども、団体として協力させていただければと思っております。 （中山会長） 　ＪＣががんばってくれると効果が高いのかなと思います。 　雅楽谷の森フェスティバルについては、我々大学としても来年は学生に動員をかけるとか何かできることがあるのかなと思っておりますので、蓮田市の官との連携をもっともっと深めていかないと具体的な人口増は達成できないのかなと感じております。 　先ほど廣本委員の方からもうちょっとあるということでしたが。

	（廣本委員） 　実は先ほど積み上げを行ったという前提でお話をしたのですが、143の事業を行っても今の人口を減らす政策なのかというのが私の第一の疑問であって、これは変だぞ、一つ一つの事業を積み上げてないのでは、と。一つ一つの事業の中に目標を入れ込んでいったら、こんな政策は無いだろうなと。 　逆に言うと、これだけあるので全部やりきれないというものもあります。 　それからもう一つ、今ここにあった143の事業すべてを既存の部門に落とし込みましたよね。既存の部門に落とし込んだということは、別に私たちがいなくても、この会議がなくても既存でも考えられたことなのですよね、きっと。でも、今ここで我々が検討しているという時、他の県でも他の市でもみんなが同じ検討をし、それぞれが日本一を目指しているのですよ。だから、これは生半可なことで、いい加減に辻褄合わせはできないと思います。これは戦いですからね、他の市、他の県との。みんな一斉に法律に基づいてスタートしたわけですから、どこが人口を減らして、どこが人口を増やしてというのは戦いですよね。 　だから一つ一つきちんと積み上げなければならないというのがまず一つ。それからもう一つ、それぞれの既存の部門ができる程度のことなら、プラスアルファを考えましょうよと、新しい組織でも作ってもらうとか、またはプロジェクトチームでも良いではないですか、職員を増やせないのだったら優秀な力の余った人を何人か集めていただいてプロジェクトを作っていただいて、そのプロジェクトが市民の人たちの賛同を得ながら、そういう人たちの活力を借りて活動して、プラスアルファを考えるというプロジェクトチームを作るというようなことを行えば、そんなに市の負担もなくて済むし。 　要は、この143の事業を行っても人口が減るのであれば、プラスアルファを考えないと、よその県やよその市に負けてしまうよというのが、私がこの資料を見た結論です。ですから、これではまずいと。だから本当に、これが積み上げたものでなかったからよかった。本当に安心をしました。 （中山会長） 　ありがとうございます。 　この辺は本当に民を巻き込む、あるいは政策間連携ですね、あちこちで似たようなことをばらばらに行っているという面もありますので。 　縦割りではなくて、複数の課にまたがるようなことをいくつか行ってくださっていますけれども、今、大胆なプロジェクトチームのようなご意見があった通り、どこか新しいものを作るかして、複数の3つか4つの課をまたいで、重複を避けるようにして、予算を集中的にして、なおかつ、民の力を取り込んで行く。やはり行政が音頭をとってくれるとありがたいですよね。民がお願いしても職員はお忙しそうにしているし、民のほうもなかなか動けないところがあるので。 　声掛けをしてくださると民も手を挙げて参加しやすいということが確かにございます。できれば、143の事業の1割にあたる14～15の事業を最重点事業として、その中のもので声をかけてくださっても良いですよね。具体的には、先ほどの子育てを一段落したグループを作って、若い世代の子育てを支援するとか、そのようなことを行ってくださると、本当に人口が増えてくるのではないかなという気がいたします。 （廣本委員） 　今、プロジェクトという表現を使いましたのは、既存の組織では新しいことをプラスアルファで考えるということはなかなか難しいのですよ。決められた

	ことをではどうやって行こうかということは良いのですが、プラスアルファで何かできないかといったら、既存ではないところで発想をしなければいけないのです。 　この前、はすぴぃが動けなさ過ぎるというお話をしましたよね、階段を登れないマスコットというのは、子どもと遊べないのではないか。やはり子どもが喜んで集まってくる、お母さんも集まってくるというようなマスコットにしたらいいねって申し上げた時に、お答えはとりあえず50位以内に入ればいいのだからというものでした。これは既存のベースの考え方です。それはそれでいいのですよ。でも、プロジェクトはどうするかというと、はすぴぃを作り替えるのですよ。 　既存のはすぴぃは、既存の部門が今まで通り管理して運営をされていて、でも、別個で、プロジェクトは、はすぴぃのイメージを変えず動き回れるような、一緒に子どもと相撲もとれるようなそういうはすぴぃを考え出す、作り出すというのがプロジェクトの仕事なのです。それができたときに、上手に既存のはすぴぃと新しいはすぴぃを切り替えていくといったプロジェクトが必要なのではないかと思います。ひとつの例として。 （事務局） 　プロジェクトチームということでは、今、蓮田市の職員で政策研究会議というものを昨年度から作っておりまして、若手職員10人で人口増加策とシティーセールスをテーマに、 1年間の期限を区切っての活動なのですが、 年に10数回会議を開いて検討しております。 　今年度につきましても、まもなく検討結果がまとまると思いますが、そういったところでも少し動きだしております。課をまたがっておりますので、自分の仕事以外の部分も含めて行っております。 （廣本委員） 　それは良いことですね。是非、そのプロジェクトのメンバーには会議ではなくて実際動いてもらうこと、形を作ってもらうための交渉に出かけること、そして誰かに頼んでくるというようなことをするのがプロジェクトだということを教えてあげて下さい。 （中山会長） 　そうですね、案ばかり出して動かないというのはよくありますけれども、やはり福祉の領域などでも実際に動かす仕事をしないと、誰にというのは非常に難しいのですが。 　具体的には、子育て支援が動きだせばよいのかな、教育と連携して蓮田の教育ブランドを高めていくというのが、かなり実効性が高くて優先順位も高いのかなという感じがいたします。 　その他に何かご意見はございますか。 　それでは、だいたいご意見をいただくことができましたので、これにて第4回の会議を終了させていただきたいと思います。 　それでは会議の進行にご協力をいただきまして皆様ありがとうございました。議事進行を事務局にお返しいたしますので宜しくお願いいたします。 （田島調整幹） 　貴重なご意見をいただきまして大変ありがとうございました。 　最後になってしまいましたが、中野市長がお見えになっておりますので、ご挨拶申し上げたいと思います。

	（中野市長） 皆様こんばんは。 会議に遅れてしまいまして申し訳ございません。 まさに、蓮田市は高齢化時代を迎えており、只今、お寺の方に行って帰ってきたところでございます。 途中からのお話で大変恐縮ですが、皆様のお力添えで蓮田市の構想を着々と立ち上げることができました。感謝申し上げる次第でございます。 蓮田市の場合には、人口ビジョンと主な事業を抱き合わせて1つにくくって戦略としました。皆様方のご意見をいただきながら、事務方と私を含めてみんなでまとめて参りました。 蓮田市の場合は、今回の国の動きにかかわらず、ここ数年、各部各課で取り組んでいる仕事を年4回の議会の合間に、市の全体事業の進行管理をしながら、変更したり追加したりして庁内の調整をしておりました。市役所は具体的なものとならないと外に公表しませんので、おわかりにくい点があったと思いますけれども、今回の国のまち・ひと・しごと創生総合戦略を受けて、これまでの市の取組内容がこのような形で提示することができまして、我々としても大変ありがたく思っております。 この仕事に取り組みながら感じているのですが、先ほど廣本委員に言われましたように、確証を持ったわけではありませんが、国はこの仕事を全国津々浦々の自治体に投げかけて、国・県・市町村の縦割り行政を市町村の個々の問題ですよ、自分のまちは自主自立したまちづくりをやって下さいよという思想が最近感じられるようになりました。いろいろな識者のご意見もそのようなところにあるということを感じております。そうは言いつつ、国はここまで細かいことにまで介入するのかと、もう少し市町村に任せてほしいというところもあります。ただ、やはり国は国で、もう国・県の縦割りだけでは面倒見ませんよ、面倒見られませんよということでしょうか。そのような時代に来ているのですと警鐘を鳴らしているような気もいたします。 幸い蓮田市の場合には、先ほど申し上げましたように数年前から、全課で全ての事業を体系的に取り組んでおりました。その時その時のパフォーマンスでの事業の取組は通用いたしませんので、しっかりと精査して取り組んでおりました。従って、この総合戦略を策定したことによって、さらにこのような形で少しずつではありますが、市民の方々を巻き込んだ事業展開ができるかなと、またできれば良いかなと思っております。 個々には、人口の積み上げ方式がどうなっているのかとか、事業ごとにどのくらい人口増加を見込むかとか、役所的には一番苦手なところでありますが、不足する部分があると思います。しかし、我々はこのことを前向きに受けて、蓮田市に合った、地理条件を生かした、他の市や町に負けないような戦略にできていければ良いと思っています。 また、この総合戦略をもって、今後、国といろいろなことを調整するのですが、国も若干手探りの状況があります。国は、最初は華々しく「まち・ひと・しごと」を打ち上げてきたのですが、この総合戦略の中から国の方針に合った事業をピックアップし、補助事業として取り組む手筈を取っていくやり取りの中で、今度は、総合戦略だけではなく、さらに地域再生計画を作るということになってまいりました。国も試行錯誤的なところがあるのですね。華々しく打ち上げて各自治体からいっぱい出てきたということは良いのですけれども、やはりまだ信用ができないのでしょうか、今度は補助事業ごとにまた一つ具体的な計画を立ててほしいということになっています。そこまでするのかというところもあるのですが、それらの意向を受けながら、たくさんのいろいろな事業の中から国の方針に合った事業をこれから具体的に取り組んで参りたいと思い

	ます。そして、その中から、ある程度このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、先ほど会長が言われましたように、いくつか主なものがピックアップされてつながっていくのかなとも思っております。 　このような積み上げ方は初めてでして、まだまだ慣れない、なかなか受け入れられていない部分も若干ございます。しかし、当会議のご意見を無駄にしないようにして、先ほど寺澤委員から、もっと市民を巻き込んだらという話もございましたが、さまざまな形で今後取り組ませていただければ大変ありがたいと思っております。 　あちこちに話が飛んでしまい誠に申し訳ないのですが、今日は、非常にありがたいいろいろな意見を賜りまして誠にありがとうございました。各部長職の職員もよく受け止めてくれていると思いますので、今後充分皆様のご意見を生かして参りたいと思います。 　大変ありがとうございました。
4　その他	（田島調整幹） 　ありがとうございました。それでは次第の4その他といたしまして、事務局から連絡事項がございます。 （事務局） 　本日はありがとうございました。 　この計画は今度の3月議会の初日に報告させていただきたいと思います。この会議は、今年度は今回が最後と考えております。来年度につきましては、進行管理ということで、年に1、2回になるかと思います。資料4の23ページにありますＰＤＣＡサイクルに当てはめると、今回は「ＰＬＡＮ」を策定する段階として委員の皆様からご意見をいただきましたが、今度は市の方で「ＤＯ」ということで実行して、それでまた皆様に「ＣＨＥＣＫ」をしていただくという形で進行管理をお願いしたいと思います。 　平成28年度につきましては、ある程度事業が進んでからの開催になろうかと思いますが、また宜しくお願いしたいと思います。
5　閉会挨拶	（田島調整幹） 　以上を持ちまして本日の議事は全て終了いたしました。閉会にあたりまして淺田副会長からご挨拶をお願いいたします。 （淺田委員） 　皆様、本日はお忙しい中、第4回蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございました。そして市役所の職員の皆様も今日はノー残業デーという中、遅くまでありがとうございました。 　委員の皆様から貴重なご意見をいただきまして、この総合戦略ができあがりました。143の事業となっております。先ほど委員の皆様からもご意見がありましたが、民の力を是非、市役所行政のできない部分にお声がけいただき、産官学金労が全て一丸となり、蓮田一丸となって政策を推し進められればと思います。 　次回はチェックということで、アクト・アクションの改善もあるかと思いますので．時間が空くということですが、次回以降も宜しくお願いいたします。それでは、第4回蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会いたします。 　本日はお疲れ様でした。